



2022年5月13日

各位

会社名 株式会社イオレ
代表者名 代表取締役社長 富塚 優
(コード：2334、東証グロース)
問合わせ先 執行役員 阪上 祐次
(TEL.050-5840-5675)

**2022年3月期通期業績予想と実績値の差異
及び特別損失の計上に関するお知らせ**

2021年5月14日に公表しました2022年3月期通期(2021年4月1日~2022年3月31日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、特別損失の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期業績予想と実績値の差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2021年5月14日発表)	百万円 1,838 ~2,139	百万円 △97 ~53	百万円 △97 ~53	百万円 △100 ~50	円 銭 △42.98 ~21.81
実績(B)	2,086	△40	△43	△147	△61.65
増減額(B-A)	247 ~△53	57 ~△93	53 ~△96	△47 ~△198	
増減率(%)	13.5 ~△2.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期通期)	1,439	△295	△274	△630	△271.32

2. 差異の理由

2022年3月期の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、現時点で入手可能な情報や市場動向の予測等に基づき、レンジ形式で通期の業績予想を公表いたしました。これらの業績予想は、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な状況であり、下期においても当該状況

が一定程度継続するものの、今後は予防対策を伴いながら徐々に経済活動が再開され、企業の求人意欲の回復が緩やかに進むことを前提としておりました。前期より運用型広告の当社運用力を背景に他社からの乗り換えやコロナ禍の影響を受けにくい顧客群の強化を行ってきた結果、「HRテクノロジー事業」が売上高を牽引し、コロナ禍以前の売上水準まで回復の兆しを見せ始めたことにより、売上高はレンジの上限寄り、営業利益及び経常利益はレンジの中央値下限よりとなりました。

当期純利益に関しては、当期に固定資産の減損損失を計上した結果、前回予想を下回り、147百万円の当期純損失となりました。

3. 特別損失の計上について

2022年3月期第4四半期において、ソフトウェアを中心とした無形固定資産等について、現在の事業環境及び今後の業績見通し等を勘案し、将来の収益を保守的に見積もり慎重に検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、減損損失101百万円を特別損失に計上いたしました。

以上